

持続可能な循環型社会を目指して

その「紙」、本当に「ごみ」？

毎日、各家庭で発生する「可燃ごみ」。

何気なく捨ててしまうごみの中にも、リサイクル可能なものが含まれています。

一人ひとりの行動こそが、持続可能な循環型社会をつくる大きな原動力です。

鶴ヶ島市から地球の未来に向けて、リサイクルの輪を広げてみませんか。

ここでは、今日からできる身近な「雑がみ」のリサイクルをご紹介します。



問合せ先 生活環境課環境推進担当

数字でチェック！ 鶴ヶ島市の可燃ごみ

令和2年度実績

可燃ごみの総排出量(年間)

＝約 **17,099** t

市民1人が出す可燃ごみの量(1日)

＝約 **670** g ⇨ その約36%が紙・布類

市民1人が出す可燃ごみ(670 g)に混ざっている“紙・布類”の量(1日)

＝約 **242** g ⇨ A4サイズのコピー用紙にすると 約 **60** 枚分!!



紙・布類のリサイクル率比較[※]

鶴ヶ島市	県内平均
6.7%	9.3%

※紙・布類のリサイクル率は、市内で出されたごみの総量と、分別されて資源として出された紙・布類の量を比較した数値です。数値が高いほどリサイクルが進んでいることを示します。令和元年度は県内平均を下回ったこの数値を、県内の優良市の数値12.9%まで高めることができると、私たちが毎日出すごみの量は**マイナス50g!** 市全体では、コピー用紙のリサイクルが年間約**3億3000枚** 増えることとなります!

高倉クリーンセンターで燃やしている紙・布類には、「雑がみ」がたくさん含まれています。可燃ごみと間違えやすいこの「雑がみ」、実は再生利用が可能な立派な「資源」です。可燃ごみの減量や、限りある資源の有効活用にも効果的な「雑がみ」のリサイクル。取組の輪を広げて、持続可能な「循環型社会」を目指しましょう。

混ぜるとごみでも分ければ立派な資源です！

雑がみQ&A

Q 雑がみってどんな紙？

A ティッシュペーパーやラップの箱、お菓子の紙箱、紙袋や封筒、包装紙、トイレットペーパーの芯、カレンダーなどが雑がみです。小さな紙切れやメモ用紙なども、雑がみとしてリサイクルできます。きちんと分別することで、絵本や段ボールなどに生まれ変わります。

Q ぬれてしまった雑がみはリサイクルできる？

A 水にぬれてしまうとリサイクルできないことがあります。雨の日には集積所に出さないようにご協力をお願いします。

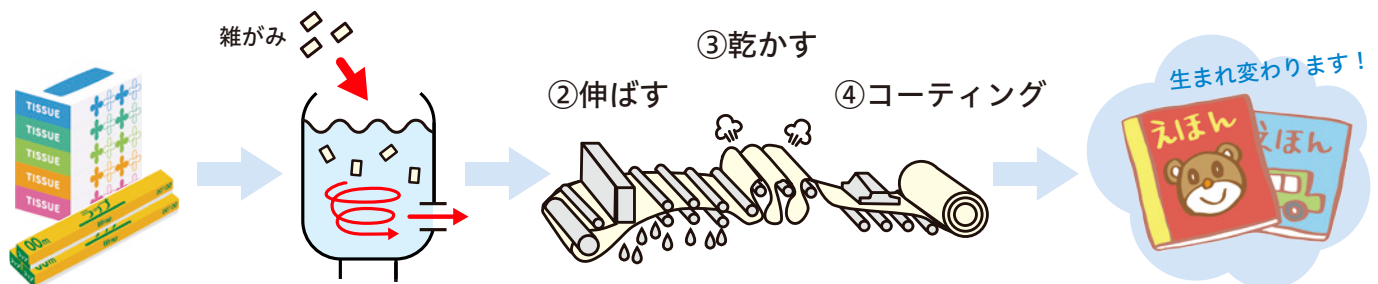
Q リサイクルに向かない雑がみはあるの？

A あります。臭いや汚れのついたもの、レシートなど、リサイクルに向かない紙が混ざると、リサイクル品の質が落ちてしまいます。

詳しくは、裏表紙をご覧ください。

雑がみリサイクルの仕組み

①ミキサーで水と混ぜてほぐす



※リサイクル工程を分かりやすく簡略化したイメージです。実際は、リサイクルルートや工場により異なります。

つるがしまから地球の未来のために。SDGsに貢献しましょう!!

SDGsは、持続可能でよりよい世界を実現するために、2030年までに達成を目指す世界の目標です。

SDGsの目標の1つ「つくる責任 つかう責任」では、再生利用（リサイクル）などにより、ごみの排出量を大幅に減らすことを具体的なターゲットとして定めています。

紙・布をリサイクルする、リサイクル製品を使うなど、資源を循環させて、ごみを減らしていきましょう！

特に、これから年末にかけては、可燃ごみの排出量が多くなる季節です。

「雑がみ」のリサイクルを通じて、持続可能な世界を目指すSDGsの取組に貢献してみませんか。

裏表紙「すぐに役立つ！ 雑がみ分別のコツ」もぜひチェックしてください。

12 つくる責任
つかう責任

